

WASEDA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION of JAPAN and TAIWAN

日台稲門会 会報 第13号



発行所：日台稲門会事務局
神奈川県茅ヶ崎市南湖 5-15-5(小野間方)
TEL・FAX 0467(83)2611
編集委員会
発行人：岩永 康久
編集責任者：齋藤 晃

「会長就任一年で思う事」 中台ECFA協定と今後の日台対応

日台稲門会会長 岩永 康久
(昭和四四年・政経)



会長就任一年になりますが、この間関係各位のご協力を賜り、この場を借りお礼申し上げます。この一年特に力を入れてきましたのは、「老壮若」のバランスある会の構成、及びホームページの整備でした。各種行事には日台の学生にも参加を呼び掛け、若手会員の入会も増え、ホームページも一新しています。一度ご覧になって見て下さい。(http://nitai-tounon.com/)

挨拶はさて置き、本稿ではECFAに絡んだ日台中の関係につき以下述べて見たいと思います。

四月二五日に馬英九總統と蔡英文民進党主席のECFAに関するテレビ討論が開催された。ECFAは一般に言われるFTA(自由貿易協定)と同じだが、FTAは国家間協定になるため中国がFTAなる言葉の使用に反対。一方台湾にとつては中国・香港間で結ばれたCEPA(二国両制前提)は受けられない。従い

ECFAは実体としてFTAと同じと考えて良い。馬政権になって中台和解が推進され、今や台湾の貿易に占める中国の比率は四〇%を超える。馬政権はECFA締結を六月目処に進めている。これに対し台湾住民は余りに急速に進む中国との関係強化に不安が強まっている。このスピードで行くと中国に併呑されてしまふのではないかとの懸念ばかりでなく、失業率の増大、中国農産品の輸入増、農業汚染等による食の不安があり、各種世論調査でも反対論が過半数を占める。馬總統は国民の支持を得た上で進めるとの発言をしており、今回の党首会談に繋がったが、結果は痛み分けとなった。ではECFAは本当に台湾に必要なだろうか？結論から言えば「中国の台湾孤立化政策が成功した現状を考慮すればやむを得ない選択」と考える。

しかし、台湾は外貨持ち高で世界第四位、貿易総額で世界第十八位に位置する大きな存在であり、台湾の出口が中国のみに絞られた形はアジア・世界経済にとつても好ましくない。特に日本にとつて台湾は世界第四位の貿易パートナーであり、自由貿易交渉で出遅れている日本にとつてはより大きな問題を含んでいる。もともと日台間FTAの話は二〇〇一年APEC会議で当時の平沼経産大臣、林信義経済部長の間で前に進めようとの話が出た。しかし中国の反対でその後進展していない。FTAとかEPA(経済連携協定)は本来経済問題。台湾はWTO(世界貿易機構)にも加盟しており、台湾と日本が経済協定を結ぶ事は問題ない。確かに政府間協定にする事は無理があるが、実質的な双方の代表機関である亜東関係協会・交流協会で締結することは筋の通った話であり、批判を受ける筋の

ものではない。現状より判断すれば、中台ECFA協定が先行するだろうが、その後台湾としては他の国々との経済協定を進めて行く事になる。その際、中国はこれまで同様反対するのだろうか？日本は如何に対応するのだろうか？私は中国の大人の対応を望みたい。ECFA締結した後でも中国が反対を続けるようであれば、自国利益優先を前面に出し過ぎる中国の傲慢なやり方に対する国際批判を強める事になろう。

FTA・EPA協定に出遅れている日本の立場としても自国経済が低迷する中何時までも中国との軋轢を避ける事には取られ過ぎて、結果的に自国の経済がさらに弱まって行く事態は最早許容されない。経済構造が似通った台湾と(出来れば韓国も含めて)締結を急ぐ必要がある。台・韓とはFTA・EPA協定で問題になる農業問題も少ない。一方、韓国とは歴史問題があるからとの意見が出やすいが、今の世界情勢はこのような問題に囚われ続ける事を許す状況ではない。これは日本だけでなく韓国にも言えること。日韓人口合わせると二億の人口となり、自由民主の先進経済地域として大きな市場規模になる。勿論隣国中国との協定も急がなければならないが、農業他いろいろな問題があり協定締結までは時間を要しよう。世界ではEU・NAFTA・ASEAN・中印などの経済協定が着々と進んでおり、先ずは隣り合わせの日韓台で結びつく事が肝要と考える。その為には日本政府の毅然とした対応が必要であり、現状のように内向きな議論で迷走する政治は許されない。二五年、百年後の日本の姿を想定し、現在の政策決定に過ちのないように期待したい。

台湾民主選挙の新しい画期的出来事
— 独立選挙機関の成立

台湾のほとんどの日系企業がお世話になっている萬国法律事務所の頼浩敏先生は現在事務所を離れ、中央選挙委員会主任委員(内閣閣僚)の重責を担っていらつしやいます。このほど特別寄稿を頂きましたので、ご紹介いたします。



頼 浩敏

はじめに

民主政治とは国民の意志を実現する政治であり、主権が国民にあり、また、選挙は国民が政治に参加する最大の機会であつて民主主義の根幹をなすものでもあります。国の主権者である国民が、自由で公平な選挙を通して、自らの国や地方に対する意見や要望を忠実に反映し、適正に執行できる者を選出できることは、民主国家にとって非常に重要な課題です。台湾は民主選挙の洗礼を受け、政治はとつとくに権威主義政体から民主主義政体へ替わつており、また二〇〇〇年と二〇〇八年の二回の政権交代を経て、本格的な政党政治に定型しつつあります。

人民参政権の守護者…独立且つ公正な中央選挙委員会

憲法に基づき民主法治及び人民参政権を保障する本旨を貫徹するため、二〇〇九年六月一日、中央選挙委員会組織法が制定公布されました。この法律の制定により、中央選挙委員会に独立機構という法的地位が賦与されました。これは台湾の民主選挙の競争の公平性及び国民の政府に対する信頼の向上と密接な関連性があり、その意義は非常に重大です。

この組織法の条文の規定によると、中央選挙委員会は主に、正、副総統を含む全国公職人員の選挙、罷免及び公民投票事務の総合計画、処理及び指揮監督などを掌理し、委員九人から十一人で構成され、その内の一人が主任委員(日本の大臣に相当)、一人が副主任委員で、いずれも行政院院長(日本の内閣総理大臣に相当)が指名、立法院(日本の国会に相当)の同意を得て任命されます。委員の任期は四年で、一回連任できます。同一政党に所属する者の比率は委員総数の三分の一を超えてはならず、且つ任期中はいかなる政党活動にも参加することが禁止されています。また、中央選挙委員会の下に各特別市、県(市)で、市、県(市)選挙委員会を置き、中央選挙委員会の指揮監督の下で選挙、罷免、公民投票の事務を遂行します。中央選挙委員会が独立機構に改制された後、行政院の呉敦義院長が、最初の主任委員になる人選は、この委員会の超然、独立、公正の立場及びイメージを確立するのに極めて重要な影響を及ぼすものですから、一緒に台湾のために頑張りました。この呉院長の強力な要請で、わたくしは二〇〇九年十一月四日に中央選挙委員会法制化後首任の主任委員となり、微力ながら、台湾の公正、明るい且つ清潔な選挙に尽力することを

開始しました。

理念と堅持

主任委員に着任する前の二〇〇年もわたくしは無党派の身分で同委員会の委員を務め、台湾の公職選挙と民主政治の発展に随分長い時間参加してきました。他の諸国に比べると、台湾は二大政党の政治主張が著しく異なっています。表面上は多くの人民が現状維持を希望しているようですが、潜在的には両党の中国に対する態度、即ち中国に対し「敵対的」か「友好的」かの政治意識形態に根深いものがあると云えます。このような終極的には「統一か独立か」の対立的な政治生態下、台湾の選挙は他国より激烈で、熱狂で、複雑です。従つて、選挙機関が如何に独立、超然の立場を堅持し、法により公正、公平、公開の原則に基づいて選挙業務を行い、もつて選挙結果の真実を確保し、人民の政府に対する信頼を維持するかは、実に厳しい試練です。このような認識の下、立法院がわたくしに対する同意権を行使した時、わたくしは、主任委員になつたなら自らの基本理念は「国家、人民及び法律に忠誠を尽くすことだ」と述べ、「メディアからインタビューを受けた時も「わたくしの心の中には藍(国民党を指す)も緑(民進黨を指す)もなく、黒(非を指す)と白(是を指す)のみある」と答えました。この数か月、台湾では、県市長、県市議員及び郷鎮市長の同日選挙及び三回の立法委員補選が順調に行われました。現在は、今年十一月二十七日の五つの特別市の市長と議員の選挙の準備をしているところです。今後引き続き選挙業務に携わる全人員を指揮して、一貫した理念を持つて任務を遂行して参る決意でございます。

祝 早稲田大学校友会日台稲門会
会報第13号 発刊

中華民國 台北駐日經濟文化代表處
代表 馮 寄 台

東京都港区白金台5-20-2
電話 03(3280)7811

「岩永台湾講座生台湾研修」

早稲田大学オープン教育センター 講師
早稲田大学台湾研究所 客員研究員

岩永 康久

三月八日〜十二日のスケジュールにて、昨年引き続き今年も十六名のゼミ生を連れて台湾研修に行ってきました。スケジュールは左を参照ください。

日	曜	スケジュール
8	月	台湾三菱商事(小椋董事長)訪問 三三会(台湾財界)主催の夕食会
9	火	台湾總統府、二二八紀念館(蕭錦文氏案内)見学 外交部・亞東關係協會(彭榮次會長)訪問 台湾大学にて日台学生会議との討論会 台湾大学生との夕食・交流会
10	水	自由時報(吳阿明會長)訪問、台湾大学生も参加 李登輝・元總統を訪問 台北稲門会と夕食会(古都食堂・吉林路205號)
11	木	台湾高鐵にて、台南)統一企業へ 台南にて統一企業(林蒼生・總裁)主催の昼食会 台南科學工業園區見学 奇美實業訪問 赤崁樓、延平郡王祠(鄭成功廟)観光

李登輝元總統との面談には早稲田より台湾大学に留学している六名も現地参加

李總統は小生ゼミ生のレポートを事前に読みたいので送ってくれとの要請あり、事前に全て目を通されていました。



李總統の講演に始まり、学生のレポートに対するコメント、質疑応答と当初予定の時間を超え、お付きの方の制止も無視して、面談は二時間半に及びました。李總統からは「早稲田の学生がこれほど台湾の状況を的確に理解してくれている

とは嬉しい、ありがとう、これからも宜しく」とのお言葉があり、集合写真では小生の手を握りしめておられました。



その後台北稲門会の招待で夕食をご馳走になり、会は盛り上がり、終わったのは十時半、アツと言う間の楽しいひと時を過ごさせていただきました。研修でご面談いただいた方々は政財界でも見識の高い方ばかりで、それぞれの面談に内

容・味があり、詳述したい所ですがスペースの関係上叶わず残念です。また、總統府、二二八紀念館を案内してくれた蕭錦文氏は酒井充子監督の「台湾人生」にも登場されている方です。学生のなかには日本の戦後教育の中で加害者意識を持ち続けていた者もあり、いろいろ考える事が多かったようです。比較的高齢な方ばかりでなく、台湾の学生(若者)の対応も非常に親目的で、中・韓の歴史批判とは違う、客観的事実に基づく台湾の肯定的歴史観がある事を自分の目で確かめる事ができたようです。

これからは過去に囚われ過ぎず、自信を持って外国と交わって行きたいと発言する者もあり、「台湾」に付いて一つの回答を見いだせた研修になったようです。

お知らせ 当会ホームページがリニューアルされました

是非アクセスしてください。

URL: <http://nitai-tounon.com/>

イベント予定、イベント報告、ニュースレターや会報のバックナンバー、発足以来の活動記録などが主な内容です。その他、早稲田大学台湾校友会、台北稲門会、早稲田大学台湾研究所にリンクできます。最近の情報のアップロードはこれからですが、ますます充実を図ってゆきます。

担当幹事 阪根嘉苗

「台湾好きが昂じて」

梶山憲一 (昭和五三年・社会学)

日台稲門会は、台湾駐在経験のある方が中心と聞いていますが、残念ながら私には台湾で暮らした経験はありません。ただ、台湾での滞在日数は、延べ五百日以上にはなると思います。二十年前の一九九〇年三月に初めて台湾を訪れてから、いわば台湾にハマリ、何度も台湾へと渡るようになりました。

何度でも台湾へ行きたいという思いで、安ホテルに泊まり、移動にタクシーはめったに使わないというような旅行でした。当然、そのころは林森北路の高級な店には近づいたこともありません(笑)。ただ酒は好きなほうで、師大路あたりの学生が行くような飲み屋や、雙城街のバーにはよく足を踏み入れたものです。

また、旅行といっても観光地にはあまり行かず、台北の街をただ歩きまわったり、「台湾筆會(ペンクラブ)」の会合に出たり、台湾の作家を訪ねたりといったものでした。やや変わった旅行者かもしれない。雑誌などから台湾に関する記事の注文を受け、その取材と称して台湾へ行ったこともしばしばです。「仕事」としてと家人への理由にするためと、その原稿料で、家計への負担を軽減するためでした(笑)。

こうして私は台湾にさらに深入りしていきましました。書籍編集やライティングの

フリーランスを経て二〇〇〇年に潜り込んだ現在の会社では、台湾に関する書籍を次々に出しています。前号で写真掲載された『片倉佳史の台湾新幹線で行く台南・高雄の旅』は、そうした書籍の一冊です。また二〇〇三年には、日本在住のまま月刊「なるほど・ザ・台湾」の編集長になり、数年を経て同誌顧問となり、現在に至っています。

このたび日台稲門会に入会することができて、台湾とのつながりの間口を広げられるのが楽しみです。みなさま、どうぞよろしくお願いいたします。



十五年余り前、旅費として台湾へ通っていたころの一枚
左から、民進党の謝長廷氏、私、二二八事件などのトキメント『辛酸六十年』の著者、鍾逸人氏、九六年の民進党の総経補、彭昭敏氏、とある宴席にて。

台北稲門会だより 「今の季節がオススメ台湾旅行」

台北稲門会 事務局 長田

この会報が発行される五月中旬から六月にかけて、独断ではありますが台湾旅行に一番相応しい季節です。日台稲門会のみなさま！今すぐ旅行日程を立案下さい！

■気候

この時期初夏の装いの台北ですが、まだ台風シーズン前なので、比較的气候は安定しています。日本から見れば、梅雨の心配をされるでしょうが、年中を通して多湿な気候であることを考えてみれば、特別に気にすることはありません。少しづつ日差しも強くなつてきますが、まだ夏のそれではありません。

■食べ物

食が台湾旅行の醍醐味であることは疑いようがありません。台湾料理や各種中華料理は、季節によって大きく趣を変えることはありませんが、果物は端的にその季節を映し出します。特にこの時期から夏にかけては、みずみずしく香り高い果物が目白押しです。人気のマンゴー、ライチそしてパイナップル、スイカなど余すことなく全て楽しめるのが、この時期です。近年、品種改良の進歩がめざましく、どんどん美味しくなっていると感じているのは私だけではないはずです。

日本語教育と進学指導の JET

- 大学院進学コース ●大学進学コース
- 日本語コース ●短期コース

学校法人 JET 日本語学校

理事長 金 美齡 (昭和46年文研博士単位終了 元早大講師)

校長 井上靖夫 (昭和60年一文卒 早大大学院講師)

東京都北区滝野川7-8-9 TEL.03-3916-2101

Email: info@jet.ac.jp Homepage: <http://jet.ac.jp/>



■行事

今年六月十六日が端午節で、三大節句の一つです。それぞれの家庭で粽(ちまき)を作つて、食べる習慣があります。街にも粽があふれます。食事になるもの、デザートとして味わうもの、粽三昧というのも悪くありません。

また、台湾各地の河川でドラゴンボート大会が繰り広げられ、台湾全土が活気付きます。河川傍の茶芸館で台湾茶を楽しみながら、ボート大会観戦と洒落込んでみてはいかがでしょう？

■レジャー

早慶戦ゴルフ参戦をオススメします。今回は六月五日(土)、お馴染みの老淡水での開催です。初夏ではありますが、ある意味我々台北稲門会が一番熱くなる時です。台北稲門会出身であれば参加可能ですし、ゲスト参加も大歓迎です。是非ご参加下さい！

これら以外にも台湾茶を楽しんだり、故宮博物院や台北101など数々の観光スポットが皆様の來台を待っています。是非、台北稲門会にも一声おかけください。今一番ホットな台北を案内致します。台湾・台北をもっと好きになつて下さい。お待ちしております。

『台湾鉄路と日本人』、刊行の、挨拶

片倉 佳史

貴会、そして諸先輩方におかれましては、ますますのご清栄のことと、お慶び申し上げます。

このたび、交通新聞社から『台湾鉄路と日本人』という新刊を出させていただきました。この場をお借りしまして、ご挨拶させていただきます。

本書は台湾の鉄道の歴史についてご紹介した一冊となっております。周知のように、台湾の鉄道の大部分が日本統治時代に敷設されたもので、現在も重要な交通機関となっております。島の南北を結ぶ縦貫鉄道や阿里山森林鉄道、サトウキビの運搬を目的に敷設された製糖鉄道などがあるほか、最近では新幹線の技術が初めて海外で導入された「台湾高速鉄路」もまた、日本と関わりの深い存在となっております。

台湾は日本が初めて得た海外領土ですが、その経営には様々な困難が伴いました。鉄道に関しても、亜熱帯特有の疫病をはじめ、湿地や荒野を切りひらく難しさ、また、地元住民との葛藤も断続的に繰り返されました。開業後についても、予期し得ぬ自然の猛威に晒され、苦難は想像を絶するものがあつたと思われまふ。今、台湾では郷土史探究や歴史建築探訪が一種のブームとなっております。産業遺産の保存にも熱心な土地柄ですが、台湾の人々は謙虚に先人たちの努力へ敬意を払い、歴史を正面から受け入れているように思えます。これは鉄道についても、例外ではありません。

本書では基隆(きいるん)と高雄を結ぶ縦貫鉄道をはじめ、集集線や平溪線と

いった支線、製糖鉄道や森林鉄道、台車軌道と呼ばれたトロツコなど、その歩みを紹介しています。

巻頭には日本統治時代と現在の鉄道路線図、巻末には詳細な鉄道史年表を付けてみました。また、戦後に改称された駅名一覧や戦前の路線図や時刻表、四〇点を数える古写真も掲載しております。

第五章では台湾版鉄道唱歌と言われる『台湾周遊唱歌』の全歌詞を解説付きで紹介しています。これは全九〇章から成り立ち、台湾各地の風物を紹介しています。その詳しさは本家の鉄道唱歌を上回っているように思われます。おなじみの鉄道唱歌の旋律で歌うことができますので、ぜひ口ずさんでいただければと思います。

本書の執筆にあたり、私は数十名の鉄道員OBに聞き取り調査をしました。どの方も自らの仕事に誇りを持ち、職務に邁進した日々を克明に語ってくれました。植民地統治の実態は複雑を極めますが、台湾の方々と日本人がともに暮らした半世紀を本書から感じ取っていただければ幸いです。

以上、新刊のご報告をさせていただきました。本書が皆さんの「台湾体験」のおともになれることを心より祈っております。

『台湾鉄路と日本人―線路に刻まれた日本の軌跡』 交通新聞社新書 著者 片倉佳史 定価 八四〇円

<http://www.katsuo.co.jp/book/shinsyo/013.html>

慶祝 日台稲門会第13号会報発刊

集集電工業股份有限公司

董事長 簡 燦 雲

(昭和20年 理工学部電気卒)

台湾 台北市大安區師大路93巷18號1F

TEL : 886-2-2364-2200

FAX : 886-2-2364-2929

統一編號 : 09411969

電線の最高接続法

“エキゾウェルト”
(テルミット溶接)

応用分野

●接地電線

●大電流母線

●レールボンド

(JR東日本採用中)

朝日新聞 台湾高座会報道

三月二十七日(土曜日)付朝日新聞朝刊に台湾高座会についての特集記事があり、某幹事より是非紹介するよう希望があったので、石川公弘・前会長(現・顧問)の了解のもと要約します。

歴史を歩く 外岡秀俊(編集委員)

台湾少年工 (神奈川県大和市)

『きっかけは偶然の重なりからだった。一九九二年五月、神奈川県大和市の市議会議長だった石川公弘さん(七五)は、台湾からの訪問団を迎えた。今の大和、座間市などにまたがる場所にあった高座海軍工廠で働いた元少年工たちが、再訪する旅の途中だった。

「私もあそこで暮らしました」

石川さんが言うと、先方は驚きの声をあげた。「では、あの石川先生の息子さんですか」

石川さんの父、明雄さんは、寄宿舎の五人の舎監の一人として少年工の面倒を見た。石川さんも同じ敷地に住み、食堂で少年工と肩を並べた。

「もしあの日市長が在籍していたら、議長の方が会うこともなかった。まったくの偶然でした」

石川さんは台湾で開かれた少年工の同窓会「台湾高座会」に招かれ、李雪峰会長(八三)から「渡航五〇周年の来年は、ぜひ第二の故郷、大和で大会を開きたい」と頼まれた。そして九三年六月、元少年

工ら一三〇〇人が、四〇台のバスを連ねて大和市を訪れ、日本側も一八〇〇人が集まって歓迎した。

※ ※

日本の敗色が濃くなってきた四三年、迎撃戦闘機「雷電」の製造を目的に高座海軍工廠が建てられ、動員され不足する工員の穴を埋めたのが台湾少年工たちだった。三年勉強し二年実習すれば、旧制中学と同等の卒業資格を与えるとの条件に希望者が殺到、厳しい選抜を経た八〇〇〇人の工員の大半は、国民学校高等科の在籍者が卒業生。指導者として旧制中学生四〇〇人も加わった。実際は技師らを養成している余裕がなく、少年たちは各地の工場で働きながら技術を学び、高座に戻って三交代で戦闘機づくりに従事した。製造した雷電、一二八機。

敗戦とともに少年工の管理は海軍省から厚生省、さらに神奈川県に移されたが、八四〇〇人を世話する事務官は一人だけだった。混乱の中で、みんなを諭したのは石川明雄さんだった。

「舎監は親身になって相談に乗ってくれた。身の振り方を考えろ、といわれ、自治会をつくりました」。李会長が振り返る。

※ ※

苦難の日々を過ごしたにもかかわらず、元少年工には今も親日家が多い。

「ひどい目にあつたという人もいたが、戦局の悪化でゆとりがなくなったのだから。給料を貰っていたし、厳しい生活は誰も同じだった」と、台湾高座会の謝清松秘書長(八〇)は話す。大陸から逃れ

てきた国民党政権が本省人を弾圧したことも昔を懐かしむ土壌となった。戒厳令下では同窓組織を作ることできない。

高座工廠技師だった故・早川金次氏が大和に、「戦没台湾少年工の慰霊碑」を建て、台湾で慰霊の行脚を続けた。戦時中、空襲などで亡くなった少年工は約六〇人。

八七年に台湾で戒厳令が解除されると翌年、台湾高座会が結成された。石川さんは、二〇〇三年に大和で六〇周年の歓迎会を開き、厚生労働省は、中学卒業証明書や在籍証明書を発行した。

「三年後の七〇周年は、里帰りの最後の年になるでしょう」

☆ ☆

我が波乱の人生のその一こまに 大和村なる少年期の日 元少年工 洪坤山 年毎に栄える大和は青春の 我を育てし 第二の故郷 元少年工 蔡龍鐘

「雷電」は一九三九年、海軍初の防空用局地戦闘機として三菱重工(株)に試作発注された設計主任に零戦の設計者堀越二郎技師が就いた。求められた性能は①上昇速度②最大速度③重武装であり、要求を満たす強力なエンジンに双発機用に設計された空冷の「火星」を選択、このエンジンは直径が大きく、そのため太い紡錘形の胴体となったという。本土防空戦ではB29迎撃機として最も戦果を上げている。なお高座工廠では三菱製の改善型、三三型を生産したと思われるが、ご存知の方がいらっしゃればご教示頂ければと存じます。

(文責・齋藤 晃)

日本と台湾の懸け橋を目指す

石川台湾問題研究所

代表 石川 公弘(昭和34年商研卒)

〒242-0029 大和市上草柳6-12-13

Tel 046-261-1838 Fax 046-208-2012

Yahoo! ブログ - 台湾春秋 発信中

<http://blogs.yahoo.co.jp/kim123hiro/MYBLOG/yblog.html>

日本李登輝友の会神奈川県支部長

高座日台交流の会事務局長

早大日台稲門会顧問

私のおじいちゃん

酒井 充子

昨夏、ドキュメンタリー映画「台湾人生」が公開された。本格的に取材を始めて七年で映画が完成し、八年目によく日の目を見た。取材開始当初は制作資金などまったくなく、ほかの映画のスタッフとして仕事をしながら台湾に通った。なにが私にそこまでさせたのか。十二年前、初めて台湾に旅行したときに偶然バス停で出会ったひとりのおじいちゃん。あまりに流暢な日本語と、公学校時代の日本人教師を慕い続けているその思いに衝撃を受け、台湾と日本の歴史を学んだ。

それまでの私は、伊藤博文と李鴻章が下関条約を結んだぶぐ料理屋の名前は知っていても、日本統治下の台湾で人々がどんな気持ちでどんな暮らしをしていたのかなどということに想像力を働かせたことはなかった。恥ずかしかった。

日本統治時代を生きた人が台湾にいて、複雑な気持ちを抱えながらいまも日本を優しくかつ厳しく見つめているということとを、ひとりでも多くの日本人に伝えたい。それだけだった。

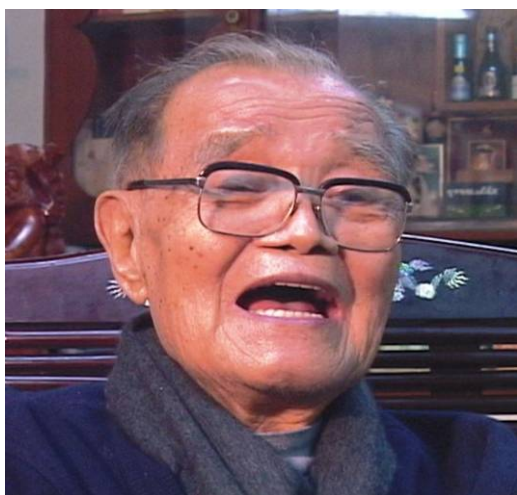
たかさんの台湾のおじいちゃん、おばあちゃんに会った。彼らの話を聞いていくうちに、自分の祖父母の話をもっと聞いてこなかったことを悔いた。母方の祖父は第二次世界大戦中に満州に出兵し

ていたが、戦争の「せ」の字も語らないまま逝ってしまった。

それはそうだ。こちらから聞くことしなかったのだから。お年寄りが自分から「おれの話の聞け」と言って語り出すことはまずない。こちらから問いかけ、耳を傾けて初めて言葉が紡がれる。

みなさん、身近なお年寄りの話を聞いてみませんか？ 彼らが生きてきた時代の延長線上に私たちは生きているのだから。難しい話はない。どんな子供だったのか、どんな恋愛をしてきたのか、そんなことからいろいろなことが見えてくるはず。

私はいま、亡くなる前夜、病院のベッドの上でじっと私を見つめていた祖父の目を思い出している。彼がまだ元気だったなら、どんなことを聞かせてくれたのだろう。(さかい あつこ) 『台湾人生』監督



「台湾人生」より

『台湾人生』の書籍版が発売

話題のドキュメンタリー映画『台湾人生』を、監督自ら書き下ろした書籍版が上梓されました。かつて日本人だった台湾のおじいちゃん、おばあちゃんにスポットライトを当てたドキュメンタリー映画『台湾人生』そこに入らなかつたエピソードやインタビュー、映画に登場しなかつた人たちのことが書かれています。

日本の敗戦までは日本人として生き、その後大陸からやってきた国民党支配の下でも抑圧された「日本語世代」。台湾人も含めて現代史の激動の中で見過ごされてきた彼らの苦難に満ちた人生に、改めて耳を傾けたいと思います。なお本書購入者には映画『台湾人生』のDVDが抽選で当たります(齋藤も買いました)。

『台湾人生』 文藝春秋社 著者
酒井充子 定価 一六五〇円

<http://www.bunshun.co.jp/fachiyom>
<http://201004/19784163725307.htm>



鈴木歯科クリニック Suzuki Dental Clinic

東京都豊島区池袋 4-25-1
絨亜ビル 1F 〒171-0014
Phone 03-5950-8241
Fax 03-5950-8242

歯科医師/歯学博士
鈴木章敬
Akiyoshi Suzuki, D.D.S., Ph.D.

タバコ 肥満は歯周病リスクを高めます。

適切な口腔ケア(歯ブラシ・舌ブラシなど)で歯周病は予防できます!
更に、カゼ、インフルエンザの予防になります!

よく噛んで! 歯周病予防と肥満予防!

「その昔の出来事」

渡辺光治 八十六歳生

会報も今年で第十三号、発行を重ねて、ここまで辿り着いて万々歳だ。実は六十五年前に遡る話だけに、書いてよいものやら、自分を疑ひたくなる話で、恐縮千万！

さて、昭和二十年八月十五日は終戦の日、私は台湾の基隆要塞重砲兵連隊にいたが、力盡きた感じで、悲哀に涙した。連隊は台中の北港へ「現地自活」に従事、一部有志は石炭堀に基隆炭鉱へ入り、賃労働に挺身した。

一ヶ月も過ぎた頃に、第三鑛業所の所長さんからお招きされて、夕食をご馳走になった。敗戦後のことだから、そんなに馳走はなかったが、心のこもった温かいもてなしに感動したりした。松永敏長のひとり娘の君子さんが、セーラ服姿で、我々兵隊さん四〇人ほどを接待して呉れた。戦争が終つての気のゆるみもあつてか、そのときの君子さんに目がくらんで、何にかホッと恋心が……。でも集団生活中のことで、そんな勝手は許されなかった。宿舎を出たらすぐ目の前が現場で、石炭が掘り出されて、どんく山積みになる。これを遅滞なく貯炭場に輸送する仕事も容易でもない。本当の力仕事でした。毎日が重労働、敗戦を尻目に賃労働に挺身したのだから、文句は出ないが

愚痴がでる。隊長役の私が、慰め役に廻わるしかなかった。

君子さんとのめぐり合いは三度ほどあつたが、突然十一月に「乗船命令」が発令、台湾全島に居住する日本人に、帰国の命令が出されて、ビックリ仰天した。十二月基隆の収容所に入り、昭和二十一年一月末に、米軍LSTに乗船して、鹿兒島に帰還したが、その時点で、恋も愛も吹き飛んでいた。

その彼女にご縁があつて六十二年振りに東京で再会したが、これは奇蹟で、情報赤い糸は切れてはいなかったことに感動するひと幕もあつた。六十五年も経つて、何故あの時に急遽乗船命令が出たのか？と言つことが、どうやら明らかになつてきたのに驚いた。

当時基隆中学生だった廣繁喜代彦さんの著書を見て、なんとその三十四頁に「台湾の引揚げが早くなつた」と記されていた。裏の裏が記述されていたのに舌を巻いてしまった。昭和・平成を生きてと題した本は、湾生に生き甲斐を与えていくことでしよう。羨ましい限りだが、当時の米軍の輸送作戦が、国民党軍の移動作戦が変更になつた爲に、台湾在住の日本人が一人残らず帰国する破目になつたことを知る人は尠いと思う。これが六十五年目の私の告白です。台湾を愛した日本人のひとりとして、皆さんにお知らせしたかった！

皆さんお元気でね！「終り」

二月十三日 高寛さん 講演会要約 「世界の潮流と東アジア構想に於ける、日・台・中の立つ位置」

高寛さんの講演会内容を要約しようと試みましたが、あの広範囲に亘つた話題をまとめるのはいささか難しく、結論を紹介いたします。

日本企業が台湾企業とアジア・中国市場で共に成功する七箇条

1. 台湾人から中国・華僑を学べ
中華民族（增量改革市場）、基本的考え方と事業の実績
2. 台湾人に自分の会社の実力・魅力を知ってもらうべし
3. 台湾に技術を供与し、工場は中国、中国での企業管理・人材管理は台湾人を起用し、中国での、関係作り・人脈問題、は台湾人に任せよ
（微妙な官僚、人事労務問題、営業他）
（知的財産権、工場買収）
4. 台湾にある日本式経営管理を導入せよ（台湾のMODER版）
物作りの心、製造・生産への姿勢、品質・納期への考え
5. 台湾人と一緒に投資すべし（Partner、仲間意識）
6. 日本の美学。道を捨てよ
7. 日本式感覚と欧米式合理主義から学ぶものあり

ことに印象に残つたのは、市場をブレイクする（日本の高性能工業製品を買ってくるハイクラス市場）とポリュームゾーン（そこに至る前の中間層市場）に分け、日台が連携してそれぞれの得意分野を攻めることにより伸び行くアジア市場に両国が貢献できる明るい将来がある、と強調された点でした。（文責・齋藤



<プロント越谷レイクタウン店>

〒343-0826 埼玉県越谷市東町4-21-1 イオンレイクタウンKAZE C201
TEL:048-934-3201 最寄り駅:越谷レイクタウン駅
営業時間:平日、土、日、祝日 カフェ 9:00~17:00 バー 17:00~23:00 定休日:無休

<プロント大手町カンファレンスセンター店>

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 大手町カンファレンスセンターB1F
TEL:03-6212-0036 最寄り駅:大手町駅
営業時間:平日 カフェ 7:00~17:00 バー 17:00~23:00 土 カフェ 8:00~17:00
定休日:日祝

<プロントカレッタ汐留店>

〒105-0021 東京都港区東新橋1-8-2 カレッタ汐留B2F
TEL:03-5537-2344 最寄り駅:汐留駅、新橋駅
営業時間:平日 カフェ 7:00~17:30 バー 17:30~23:00
土 カフェ 10:00~17:30 バー 17:30~22:00
日、祝日 カフェ 10:00~18:00 定休日:不定休

会員動向

入会会員

梶山 憲一さん(昭和五三年・社会学)

入会の動機：台湾との交流の幅を更に広げるため

阪根 嘉苗さん(平成十六年・アジ太研)

台湾人の両親の長女として台湾の高雄で産まれ小学の時に日本へ、生まれと血は台湾人だが、日本育ちの三〇歳。ホームページ担当幹事をお願いします。

入会会友

酒井 充子さん(平成九年・慶應義塾法学部)

映画「台湾人生」監督、日台の絆を大切にしている当会の活動に共感し、入会を希望。

退会会員

大庭 基臣さん、木村 滋さん(健康上の理由から)

訃報

田村 雅司氏(昭和三八年・政経)

が本年一月二八日逝去されました(享年六八)。膝臓癌での急逝だったようです。氏は加藤博会長の後を継ぎ台北稲門会会長を務められました。また第一勧業銀行(現・みずほコーポレート銀行)台北支店長として、当時台湾唯一の日系銀行ということもあり、日系企業の活動に大いに寄与されました。

台湾における日本研究

早稲田大学台湾研究所

顧問 西川 潤

二〇〇八年暮から七か月にわたり、国際交流基金の助成により、「台湾における日本研究」のテーマで調査し、その成果を本年三月に刊行することができた。このプロジェクトにはいくつか、新しい点がある。まず、一九七二年の断交以来、国際交流基金が台湾でのプロジェクトを支援するのは初めてである。日台の新時代を予感させる。第二に、台湾民主化以降、台湾では新しく日本研究の気運が盛り上がっているが、本研究では、そのような日本研究盛り上がり背景、ダイナミズムをとらえることに努めている。その上で、従来、日本語・日本文化紹介に偏っていた台湾の日本研究をどのように大学教育の本流に据えるかについて、日台双方の政府や関係機関に勧告を行った。本研究ではまず、台湾の日本語・日本文学関係の大学院を置いている十二大学や関係学会、研究所等計五十五箇所について、網羅的な面接調査を行い、これらの機関における日本研究の現状、課題を分析している。

第二に、近年新しく起こっている台湾史研究の見直しの中で進行している日本統治時代の日台関係の再考、また、観光客往来の著増や留学生・市民社会交流等を通じて日本への関心の高まりを反映し

て、大学の専門学部や社区大学等で、どう日本研究のカリキュラムを設け、また、研究図書館、電子情報の整備等とも合わせ、語学、文学に偏らない新しい日本研究の流れをつくり出していくか、について勧告をまとめている。

本書は、台湾全島にまたがる現時点での日本研究マップを描き出していると言つてよい。

昨年九月には、国立政治大学に新しく現代日本研究センター(当代日本研究中心)が発足し、ことし三月には現代日本研究学会も設立シンポジウムを行った。

六月には中興大学、中山大学、秋には台湾師範大学で、それぞれ日本研究所設立の準備が進んでいると聞く。こうした台湾における新しい日本研究への関心の高まりを読み取り、その方向を考えていく上で、本書は日台関係者のお役に立つものと考えている。

(早稲田大学台湾研究所発行『台湾における日本研究』制度化の現状、課題と展望) 本ページ広告欄参照



早稲田大学台湾研究所の2010年3月新刊2点!

西川潤・蕭新煌編『東アジア新時代の日本と台湾』明石書店、5500円+税、
<http://www.ios.sinica.edu.tw/ios/publish/info/JapanTaiwanRelationsinEastAsiasNewEra.html>

馬英九政権の下での、日台・台中関係の分析、台湾人のアイデンティ、歴史問題等、今日の台湾を理解する基本書(税送料込み特価 4500円、台湾住所発送は 5000円)

西川潤『台湾における日本研究』台湾研究所、132ページ、頒価：税・送料込み 1000円、台湾住所発送は 1300円) お申込みは台湾研究所(西川)まで。jnishi@waseda.jp Tel 03-3203-4141 内 79-3010 Fax 03-3208-8508

日台稲門会会則

第一条(名称) 本会は日台稲門会と称する。

第二条(目的) 本会は会員相互の親睦を図り、早稲田大学の発展に協力し、あわせて台湾との交流を深めることを目的とする。

第三条(会員資格および会友資格) 会員は日本に居住する早稲田大学の校友または学生で多少でも台湾にゆかりのある者とする。

2、会友は本会活動目的に賛同する者で、会員の推薦により幹事会で決定する。

第四条(役員を選出) 本会は幹事会において以下の役員を選出し、次回総会において承認を受けることとする。

1、会長(1名)は幹事会の推薦を経て総会で選出する。

2、副会長(若干名)は幹事会の推薦を経て会長が委嘱する。

3、幹事(若干名)は幹事会の推薦を経て会長が委嘱する。

第五条(役員任期) 役員任期は二年とする。但し、再任を妨げない。

第六条(役員職務) 役員は次の会務を執行する。

1、本会の諸会合に関すること

2、会員名簿の整理並びに発行に関すること

3、その他の本会の目的達成に必要な業務の企画。

4、会計監査。

第七条(会長・副会長の職務) 会長は本会を代表し、本会の運営を統括する。

副会長は会長を補佐し、会長事故

ある時はこれに代わる。

第八条(役員会) 役員会(幹事会)は、会長、副会長、幹事をもって構成し、必要に応じて会長が召集して本会の運営に必要な事項を協議、決定する。

2、本会則の改定を必要とする事項については、直近の総会において事後承認を求めなければならない。

第九条(総会) 本会は役員会の決定を経て毎年一回、会長の招集により定期総会を開催する。但し、会長が必要と認めた時は、役員会の議を経て臨時総会を開催することができる。

定期、臨時総会において、会長は議長となり、決議は出席会員の過半数をもって成立する。

第十条(事務所) 本会の事務所は関東地区内の役員宅に置く。

第十一条(経費) 本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもって支払う。

第十二条(入会金および年会費) 本会の会費は次のとおりとする。

1、入会金は金二〇〇〇円とし、年会費は金五〇〇〇円とする。

2、年会費を継続して三年間未納の場合、本会を退会したものと見なす。

第十三条(会計年度) 本会の会計年度は四月一日より翌年の三月三十一日までとする。

第十四条(名誉会長、顧問) 名誉会長、顧問は会長が委嘱する。

第十五条(付則) 本会則は平成九年一月一日より施行する。

平成二年四月一五日 一部改定

平成三年四月七日 一部改定

平成五年四月二日 一部改定

平成二〇年四月二六日 一部改定

萬國專利商標事務所

当所は1972年に創立以来、企業団体、大学の学生団体に知的財産権についての教育と指導を続けると共に、特許・商標出願依頼人に対して、電子、電気、半導体、ビジネスモデル、ソフトウェア、化学、医薬品、バイオ、材料、機械、日用品等の各分野における発明・考案・意匠・商標の権利化を始め、知的財産関係の研究、相談など質の高いサービスを提供しております。皆様方の暖かいご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

所長 陳昭誠 (弁理士・会計士)

副所長 洪武雄 (弁理士・技術士)

副所長 陳昭明 (2001年アジ研卒)

台湾台北市10044博愛路35号9階

TEL: 886-2-2381-7099 (代表)

FAX: 886-2-2331-7068・886-2-2389-1188

E-MAIL: info@iprlouis.com

WEBSITE: www.louisipo.com

メンバー: 台湾弁理士会 (Taiwan Patent Attorney Association, TPAA)

日本知的財産協会 (Japan Intellectual Property Association, JIPA)

アジア弁理士協会 (Asian Patent Attorney Association, APAA)

国際商標協会 (International Trademark Association, INTA)

国際工業所有権保護協会

(International Association for the Protection of Industrial Property, AIPPI)

世界知的財産代理人連盟

(International Federation of Intellectual Property Attorneys, FICPI)

知的財産戦略ネットワーク

(Intellectual Property Strategy Network, IPSN)

『台湾という新しい国』

許世楮・盧千恵著・著／まどか出版

本書は前台北駐日経済文化代表処代表・許世楮氏と夫人の盧千恵さんの前著『台湾は台湾人の国』(章恵社)に、大幅な加筆や修正を加えたもの、あれから五年も経ったのです。ご夫妻がテーマ毎に、短いエピソードを交互に綴り上げる形式になっていて、とても読み易い。興味のあるテーマ順に読んでほしいでしょう。

新たに加筆されたのは第八章「台湾国への道のり」で、私の「新生国家理論」ということを唱えられています。私の拙い解釈によれば、先ず①台湾は清国により、国際ルールに則り日本へ割譲された、②日本はサンフランシスコ講和条約により「台湾及び澎湖諸島のすべての所有権ならびに請求権を放棄した」が、帰属先が明示されていないため台湾の地位は未定となった、③よって台湾は、法的には中華民国の(占領状態ではあるが)領土ではなく、中華人民共和国の管轄に入ったこともない。その上で氏は、新生国家台湾国名義で国連に加盟申請すべきと論じます。またこの台湾国は、①中華民国を継承したものでなく、②中華民国から分かれたものでもない、だから分裂国家ではない、ということをご前提とします。

それにしてご夫婦の周囲には敵味方問わず、様々な「事件」に登場する人々が集合離散します。また、お二人の日々の営為の中で起きる尋常でない出来事も、冷静に淡々と語られるのです、平常心か。なお今回の発行は、当会会員・梶山憲一さん(昭和五三年・社会学)が健筆を奮う「まどか出版」です。これからも「まどか出版」作品を紹介いたします。(齋藤)

「私は、なぜ日本国民となったのか」

金美齡・著／WAC BUNDO

第1章 私は、なぜ日本国民となったのか
 第2章 台湾人に生まれた悲哀
 第3章 台湾独立運動に身を投じた五十年
 第4章 台湾人の「日本精神」(リップン チェンシン)

第5章 「国家意識」なき日本人

解説なぞ畏れ多く、感じた箇所を引用します。プリントして貼ってください。

「一国二制度になった台湾で私は、(略)台湾人ではない。このまま台湾人であり続けるという事は、中華民国のパスポートがある日、中華人民共和国のパスポートになるということである。それだけは死んでも嫌なのだ。」(前回衆院選での選択は何だったのか)

「国がないということを経験しているから、国というものがどれほど大切かということに切実になる。(中略)おそらく、日本人にとって、国とは空気のようなものではないだろうか。」(友愛ですから)

「日本人が日本の悪口を言ったり、日本のことをあしざまに言ったりする場合、それは、日本をよくしたいがために言っているとは思えないことが多い。(略)自分の国のことを悪く言うことがすなわち、自分を貶めているのだということに気づかない。」(河野・山村談話)

「個人と国は対立する」という意識的な刷りこみは、(中略)本当の独裁国家を知らない人間の戯言である。」(左翼は訴訟好き)

許・盧夫妻、周・金夫妻ともにパスポートを取り上げられたため、台湾国外で政治活動を行った。割譲時代の台湾、併合時代の朝鮮にもそういう闘士はいた。古くはドゴール、最近ではダライ・ラマ。フルトヴェングラーは敢えてナチスドイツ国内に留まり、トスカニーニに罵られた。(齋藤)

「宋家王朝(上・下)」

中国の富と権力を支配した一族の物語

スターリング・シーグレーブ・著／

田畑光永・訳 岩波現代文庫

ご承知の通り本書は、靄齡、慶齡、美齡の宋家三姉妹の生涯を軸に、この一族及び取りまきがいかにルーズベルト始め米国(人)を騙し抜き中国の命運を支配したかを、多方面から詳細に描いた作品。宋子文・孔祥熙・孫文・蒋介石も重要な登場人物で、対華援助の裏で蓄財と権力掌握のため陰謀を巡らします。日本人の夢想する信義、善意とか良心は存在せず、あるのは嫉妬、裏切り、そして殺戮です。

台湾赴任当時はとても持ち込める素困気はなくすつかり諦めていましたが、このほど中国共産党とベクトルを合わせる岩波現代文庫から上梓され、早速購入した次第です。四・一・二(上海での共産党員粛清)の首謀者たちが、台湾で二・二六を引き起こしたのは決して歴史の偶然ではなく、それに続く白色テロや、林義雄、陳文成、江南たちへの迫害は大陸でのフィルムを巻き戻しているかのよう。

新原稿「宋家王朝の終焉」は一読の価値あり。なお、似た内容のNHK「宋姉妹」ではこの件(ぐだり)は省かれています。前述の「台湾という新しい国」「私は、なぜ日本国民になったか」両著の時代背景がよく分かり傑作とします。鳩山首相、今ごろ「抑止力」が理解できた、なんて言っちゃ駄目ですよ。(齋藤)

編集後記

今回は一般会員・会友の方からの投稿が少なく、全員参加の会報というにはいささか物足りなかつた。その代わりこれまでにない意外な方々からの寄稿をいただき、期せずして、「学校・国籍に関係のない『台湾』をキーワード」としたバラエティに富んだ内容になった。今後も早稲田の枠を超えた編集をすすみたいが、やはり基本は一般会員・会友投稿、よろしく願います。

また、当会ホームページもリニューアルされ、アップロード体制もとのった。これでは、ニューズレター、ホームページと、情報発信ツールが三メディアそろつたということ、あとはコンテンツ集め、これも会員・会友のご協力に期するものであります。

台湾と日本人との関係も、湾生から会社や姻戚関係、留学にいたるまで老若男女さまざま、目的も政治・経済・文化・学問いろいろあり、一人ひとりそれぞれの思いで台湾と向き合っている。その一つひとつを背景としたエピソードを紹介できればと思つた。

本の紹介がやや多かつた気もする(六冊)。会報は書評紙ではないので反省しているが、リアルタイムで紹介する必要があるのでは、後はホームページを利用したい。台湾本という、以前はどうしても中国との関係から語られるものが多かつたが、最近では台湾固有の歴史認識を基盤に、それも一般読者向けに書かれたものが増えていくと思つた。

今年には校友会創立百二十五周年。年次稲門会をはじめ、多くの稲門会が組織されつつあると聞く。当会もその中であつて、会員・会友、また台湾関係者にとつてもなくてはならない日台稲門会を目指したい。(齋藤)

WASEDA U 2010

祝・日台稲門会会報第13号発行

<p>小野間恒夫 神奈川県茅ヶ崎市南湖五一五―五 電話：FAX0497(883)2611</p>	 <p>行政書士 稲門会 大嶋 武 〒352-0021 埼玉県新座市あたみ三―一一 TEL 048(477)3374 FAX 048(477)3374 携帯 090(8300)9004</p>	<p>岩永康久 〒120-0021 東京都新宿区早稲田鶴巻町五三 早稲田大学研究開発センター1201号館 2F号室 電話03(5265)9102 内線000</p>	<p>井村晃也 早稲田大学校友会 日台稲門会 顧問 東京都小金井市 貫井南町五一二―一一</p>	<p>一色 徹 日台稲門会 神奈川県藤沢市 鵜沼桜が岡三―一三―一一 E-mail:sshk36@com.home.ne.jp</p>
<p>早稲田大学 台湾研究所 〒120-0021 東京都新宿区早稲田鶴巻町五三 早稲田大学研究開発センター1201号館 2F号室 電話03(5265)9102 内線000 FAX03(5265)9100 E-mail:xxchiang@waseda.jp</p>	<p>北村友雄 日本ホース金具工業会 常務理事 〒105-0004 東京都港区新橋六―十一―十三 TEL 03(35678)8821 FAX 03(35678)8822 E-mail:jhca@aurora.ocn.ne.jp http://www.jhca.gr.jp/</p>	<p>神田正治 日台稲門会幹事 E-mail:kandao386@star.ocn.ne.jp</p>	<p>川村 順一 〒226-0006 横浜市緑区 白山一―八―一一〇八 E-mail:jkawamu1@ybb.ne.jp</p>	<p>加藤 博 東京都小金井市 貫井南町五一四―一〇 電話049(889)3673</p>
<p>白鳥和夫 神奈川県茅ヶ崎市浜須賀一〇―五二 電話049(82)6884</p>	<p>阪根 嘉苗 アジアンブリッジ株式会社 代表取締役社長 〒141-0021 東京都品川区 上大崎一―一〇―三四―四一九〇八 E-mail:sakane@asian-bridge.com</p>	<p>齋藤 晃 日台稲門会・稲門乗馬会 東京都新宿区新宿六―二五―十五 E-mail:akira_sj@hotmail.com</p>	<p>近藤良三郎 早稲田大学商議員 横浜校友会顧問 〒222-0037 横浜市港北区 大倉山五―七―一―五三〇 電話FAX045(544)7536</p>	<p>輿石邦豊 〒152-0002 東京都目黒区 目黒本町二―一九―七 TEL.FAX 03(3710)1669 携帯 080(1137)4457 E-mail:kn.koshiishi@wing.ocn.ne.jp</p>
<p>渡邊 義典 日台稲門会幹事 〒204-0021 東京都清瀬市元町二―二六―二五 E-mail:watanabe.yoshinori@gmail.com</p>	<p>渡邊 光治 早稲田大学校友会 日台稲門会 〒千葉県市川市福栄四―一七―七 電話047(396)2196</p>	<p>廖 朝 欽 董事長 華隆機器工廠有限公司 廠址 台中市豊原市圓環北路二段三五九號 電話04(522)38895</p>	<p>真鍋 藤 正 真鍋藤正税理士事務所 高座日台交流の会副会長 日台稲門会監査役 神奈川県大和市中央五―十三―五 電話046(264)3050</p>	<p>西本 誠 日台稲門会幹事 〒158-0091 東京都世田谷区 中町一―三―一五セブント野毛一〇七 E-mail:mishimoto@akane.waseda.jp</p>